

AIに任せる前に 決めておくこと

AIエージェント導入で失敗しない「承認ポイント」の置き方
— Human-in-the-Loop 設計ガイド（中小企業向け）

なぜ「承認ポイント」が必要なのか

AIエージェントは「与えられたタスクを止まらず実行する」性質を持ちます。誤ったメールの大量送信・意図しない発注処理・個人情報の外部共有といったリスクを防ぐには、重要処理の手前に人間の確認を挟む設計が必要です。

承認ポイントを置くべきかどうかの判断マトリクス

処理の種類	社外に出るか	取り消せるか	承認ポイント
メール・メッセージの送信	✔ 出る	✗ 取り消せない	● 必須
発注書・請求書の送付	✔ 出る	✗ 取り消せない	● 必須
SNS・Web 公開	✔ 出る	⚠ 難しい	● 必須
顧客データの削除・変更	✗ 出ない	✗ 取り消せない	● 推奨
社内集計・レポート生成	✗ 出ない	✔ 取り消せる	● 省略可
下書き・テキスト生成	✗ 出ない	✔ 取り消せる	● 省略可

ポイント：「社外に出る」×「取り消せない」の2条件が重なるところが最優先の承認ポイント。全処理の10～20%に絞り、残りは完全自動化するのが現実的な設計です。

ノーコードツールで承認ポイントを実装する

① n8n の「Wait」ノード

n8n はオープンソースのワークフロー自動化ツールです。フロー途中で Wait ノードを挿入することで処理を一時停止し、Slack やメールで担当者に「承認リンク」を送付できます。担当者がリンクをクリックするとフローが再開します。

- 用途例：AI が生成した返信文を担当者が Slack で確認・承認後に自動送信
- コスト：セルフホスト（無料）または n8n Cloud（月約 20 USD〜）

② Dify + Slack の対話式確認フロー

Dify は AI アプリ構築プラットフォームです。ワークフロー内で Slack にメッセージを投稿し、担当者のリアクション（ or ) をトリガーにフローを分岐させられます。

- 用途例：AI が生成した見積もり文章を Slack で確認し、OK なら自動送信・NG なら再生成
- コスト：セルフホスト（無料）または Dify Cloud（月約 59 USD〜）

③ Make (旧 Integromat) の承認メールテンプレート

Make は多数の SaaS 連携を持つノーコード自動化ツールです。承認フロー用のテンプレートが用意されており、処理内容を HTML メールで担当者に送信、「承認」「却下」リンクのクリックでフローを分岐できます。

- 用途例：Google スプレッドシート上のデータ更新前に担当者へ確認メールを送信
- コスト：月 9 USD〜（操作数に応じた従量課金）

段階的に自動化を広げる3フェーズ

フェーズ	期間の目安	承認ポイントの状態	目的
フェーズ 1	導入直後～1か 月	多め（ほぼ全処理）	ミスのパターン把握
フェーズ 2	1～2か月後	中（ミスが少ない処理は省略）	信頼できる処理タイプを 特定
フェーズ 3	3か月以降	少（重要処理のみ）＋月次サンプルチェ ック	自動化の定着・最適化

承認設計でよくある3つの失敗と対策

- 承認担当者が1人→不在時にフローが止まる。2名以上の設定＋N時間でエスカレーション
- 通知内容が不明瞭→「承認しますか？」だけでは判断できない。AIの生成内容・送信先・理由を含める
- 承認ログが残らない→トレーサビリティがなくなる。スプレッドシートやSlackスレッドへの自動記録を設計段階で組み込む

「完全自動化」より「AIが作成→人間が承認→自動実行」の役割分担を設計することが、中小企業でのAI活用を長続きさせる鍵です。

株式会社DnDでは、AIエージェントの「承認ポイント」設計から n8n・Dify・Make を使ったワークフロー構築まで、中小企業向けに伴走支援しています。ご相談・お見積りは無料です。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>

